

平成 30 年 8 月 8 日  
独立行政法人国民生活センター

## 2017 年度の PI0-NET にみる危害・危険情報の概要

この概要は、PI0-NET<sup>(注1)</sup>により収集した 2017 年度の「危害・危険情報」<sup>(注2)</sup>をまとめたものです。当該情報の詳細については、「消費生活年報 2018」（2018 年 10 月発行予定）に掲載する予定となっています。

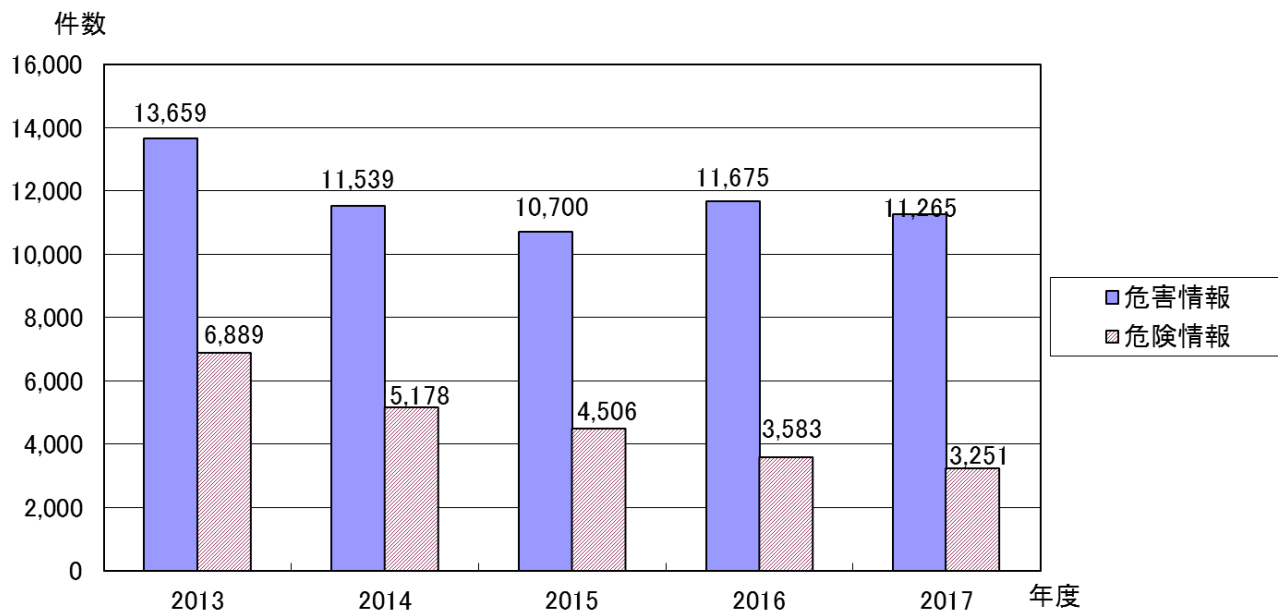
### 2017 年度の傾向と特徴

- ・「危害・危険情報」は 14,516 件で、対前年度比で見ると 4.9%減となっています。
- ・「危害情報」は 11,265 件で、上位 3 商品・役務等は「健康食品」、「化粧品」、「医療サービス」でした。「危険情報」は 3,251 件で、上位 3 商品・役務等は「四輪自動車」、「調理食品」、「自転車」でした。
- ・「危害情報」は、前年度に比べ、「化粧品」が 402 件増加したものの、「医療サービス」が 133 件、「エステティックサービス」が 121 件、「飲料」が 112 件、「外食」が 78 件、それぞれ減少したことなどが影響し、410 件減少しました。
- ・「危険情報」は、前年度に比べ、「自転車」が 32 件、「菓子類」が 24 件、それぞれ増加しましたが、前年度、カセットボンベのリコールの影響で大幅に増加した「こんろ類」が 242 件減少したことなどが影響し、332 件減少しています。

(注 1) PI0-NET（パイオネット：全国消費生活情報ネットワークシステム）とは、国民生活センターと全国の消費生活センター等をオンラインネットワークで結び、消費生活に関する相談情報を蓄積しているデータベースのこと。

(注 2) 「危害・危険情報」とは、商品・役務・設備に関連して、身体にけが、病気等の疾病（危害）を受けたという情報（「危害情報」）と、危害を受けたわけではないが、そのおそれがある情報（「危険情報」）をあわせたもの。データは、2018 年 5 月末日までの登録分。消費生活センター等からの経由相談を除いている。

図. 「危害・危険情報」の収集件数の推移



### 1. 「危害情報」の概要

2017年度にPIO-NETにより収集した「危害情報」は11,265件でした(2016年度:11,675件)。

#### (1) 商品別分類別件数

商品別分類別にみると、1位は「食料品」(「健康食品」、「飲料」、「調理食品」など) 3,022件(26.8%)、2位は「保健・福祉サービス」(「医療サービス」、「エステティックサービス」、「歯科治療」など) 2,634件(23.4%)、3位は「保健衛生品」(「化粧品」、「医薬品類」、「他の保健衛生用品」など) 2,227件(19.8%)、4位は「住居品」(「洗濯用洗剤」、「家具類」、「ふとん類」など) 859件(7.6%)、5位は「他のサービス」(「外食」など) 497件(4.4%)でした(表1)。

具体的に商品・役務等別にみると、1位は「健康食品」1,847件(16.4%)で、前年度(1位、1,877件)から30件減少した。2位は「化粧品」1,577件(14.0%)で、前年度(2位、1,175件)から402件増加しました。3位は「医療サービス」800件(7.1%)で、前年度(3位、933件)から133件減少しました。4位は「エステティックサービス」446件(4.0%)、5位は「外食」390件(3.5%)でした(表2)。

表1. 「危害情報」の商品別分類の上位5位の推移

順位	2017年度 11,265 件			2016年度 11,675 件			2015年度 10,700 件		
	商品別分類	件数	割合(%)	商品別分類	件数	割合(%)	商品別分類	件数	割合(%)
1	食料品	3,022	26.8	食料品	3,192	27.3	保健・福祉サービス	2,823	26.4
2	保健・福祉サービス	2,634	23.4	保健・福祉サービス	2,860	24.5	食料品	2,268	21.2
3	保健衛生品	2,227	19.8	保健衛生品	1,913	16.4	保健衛生品	1,803	16.9
4	住居品	859	7.6	住居品	938	8.0	住居品	935	8.7
5	他のサービス	497	4.4	他のサービス	580	5.0	他のサービス	607	5.7

表 2. 「危害情報」の上位 5 商品・役務等の推移

順位	2017年度 11,265 件			2016年度 11,675 件			2015年度 10,700 件		
	商品・役務等	件数	割合(%)	商品・役務等	件数	割合(%)	商品・役務等	件数	割合(%)
1	健康食品	1,847	16.4	健康食品	1,877	16.1	化粧品	1,041	9.7
2	化粧品	1,577	14.0	化粧品	1,175	10.1	医療サービス	916	8.6
3	医療サービス	800	7.1	医療サービス	933	8.0	健康食品	907	8.5
4	エステティックサービス	446	4.0	エステティックサービス	567	4.9	エステティックサービス	523	4.9
5	外食	390	3.5	外食	468	4.0	外食	506	4.7

## (2) 危害内容

1位は、「皮膚障害」3,168件(28.1%)で、「化粧品」、「健康食品」、「エステティックサービス」などに関するものが多くなっています。「健康食品」が100件、「エステティックサービス」が45件、それぞれ減少しましたが、「化粧品」が393件増加し、前年度(1位、3,061件)から107件増加しました(表3)。

2位は、「その他の傷病及び諸症状<sup>(注3)</sup>」2,758件(24.5%)で、「医療サービス」、「健康食品」、「歯科治療」などに関するものが多く、前年度(2位、2,834件)から76件減少しました。

3位は、「消化器障害」1,849件(16.4%)で、「健康食品」、「飲料」、「外食」などに関するものが多くなっています。「健康食品」が23件増加しましたが、「飲料」が59件、「外食」が31件、それぞれ減少したことから前年度(3位、1,931件)から82件減少しました。

4位は、「擦過傷・挫傷・打撲傷」の741件(6.6%)で、「自転車」、「商品一般」、「エステティックサービス」などに関するものが多くなっています。前年度(4位、782件)から41件減少しました。

5位は、「熱傷」634件(5.6%)で、「エステティックサービス」、「医療サービス」、「外食」などに関するものが多くなっています。前年度(5位、680件)から46件減少しています。

(注3)「その他の傷病及び諸症状」には、脱毛、切れ毛、頭痛、腰痛、発熱、精神不安定等が該当し、根本的な原因が明らかでないものが含まれる。

表 3. 危害内容別上位 5 位の推移

順位	2017年度 11,265 件			2016年度 11,675 件			2015年度 10,700 件		
	危害内容	件数	割合(%)	危害内容	件数	割合(%)	危害内容	件数	割合(%)
1	皮膚障害	3,168	28.1	皮膚障害	3,061	26.2	その他の傷病及び諸症状	2,863	26.8
2	その他の傷病及び諸症状	2,758	24.5	その他の傷病及び諸症状	2,834	24.3	皮膚障害	2,601	24.3
3	消化器障害	1,849	16.4	消化器障害	1,931	16.5	消化器障害	1,232	11.5
4	擦過傷・挫傷・打撲傷	741	6.6	擦過傷・挫傷・打撲傷	782	6.7	擦過傷・挫傷・打撲傷	838	7.8
5	熱傷	634	5.6	熱傷	680	5.8	刺傷・切傷	748	7.0

## (3) 被害者の性別・年代

危害を受けた被害者の性別件数は、女性が8,270件(73.4%)、男性が2,744件(24.4%)で、前年度と比べ、それぞれ件数は減少しているものの割合は変わりませんでした。

年代別件数では、前年度と同じく40歳代が2,058件(18.3%)で最も多く、次いで50歳代が2,003件(17.8%)となっています。以下、70歳以上1,741件(15.5%)、60歳代1,454件(12.9%)、30歳代1,412件(12.5%)、20歳代966件(8.6%)、10歳代321件(2.8%)、10歳未満277件(2.5%)と続いています(表4)。また、50歳代と70歳以上は増加しましたが、他の年代で件数は減少しました。

次に、被害者の年代別に危害の最も多い商品・役務等をみると、10歳未満の1位は「外食」27件、10歳代は「化粧品」64件、20歳代は「エステティックサービス」146件、30歳代以上の各年

代では「健康食品」で、30歳代が237件、40歳代が403件、50歳代が399件、60歳代が248件、70歳以上が270件となっています（表5）。

「健康食品」は、10歳代と50歳代以上で件数が増加し、「外食」は10歳代と50歳代、70歳以上を除いて件数が減少しました。また、「化粧品」は10歳未満と20歳代を除いて件数が増加しています。

表4. 性別・年代別危害件数

年代	男		女		不明・無回答 (未入力)		計	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
10歳未満	129	4.7	100	1.2	48	19.1	277	2.5
10歳代	116	4.2	200	2.4	5	2.0	321	2.8
20歳代	197	7.2	767	9.3	2	0.8	966	8.6
30歳代	279	10.2	1,131	13.7	2	0.8	1,412	12.5
40歳代	405	14.8	1,650	20.0	3	1.2	2,058	18.3
50歳代	447	16.3	1,549	18.7	7	2.8	2,003	17.8
60歳代	416	15.2	1,036	12.5	2	0.8	1,454	12.9
70歳以上	492	17.9	1,243	15.0	6	2.4	1,741	15.5
無回答(未入力)	263	9.6	594	7.2	176	70.1	1,033	9.2
合計	2,744	24.4	8,270	73.4	251	2.2	11,265	100.0

※割合は、小数点第2位を四捨五入しており、内訳の数値の合計は100.0%にはなりません。

表5. 危害情報における年代別の上位5商品・役務等

年代	順位	1位	2位	3位	4位	5位
10歳未満		外食 27	飲料 14	菓子類 13	調理食品 11	医療サービス、 家具類、商品一 般 10
10歳代		化粧品 64	健康食品 60	自転車 26	外食 20	医療サービス、 菓子類 12
20歳代		エステティックサービス 146	健康食品 137	化粧品 131	医療サービス 125	外食 56
30歳代		健康食品 237	化粧品 227	エステティックサービス 111	医療サービス 105	賃貸アパート・ マンション 50
40歳代		健康食品 403	化粧品 339	医療サービス 127	エステティックサービス 87	外食 70
50歳代		健康食品 399	化粧品 311	医療サービス 92	飲料 77	外食 61
60歳代		健康食品 248	化粧品 212	医療サービス 86	歯科治療 62	飲料 45
70歳以上		健康食品 270	化粧品 188	医療サービス 153	歯科治療 59	医薬品類 40
無回答(未入力)		化粧品 101	健康食品 92	医療サービス 90	外食 62	賃貸アパート・ マンション 44

## 2. 「危険情報」の概要

2017年度に収集した「危険情報」は3,251件でした（2016年度：3,583件）。

### （1）商品別分類別件数

商品別分類別でみると、1位は「住居品」（「電子レンジ類」、「家具類」、「電気掃除機類」など）922件（28.4%）、2位は「車両・乗り物」（「四輪自動車」、「自転車」、「自動二輪車」など）719件（22.1%）、3位は「食料品」（「調理食品」、「菓子類」、「飲料」など）488件（15.0%）、4位は「教養娯楽品」（「携帯電話」、「電話関連機器・用品」、「テレビ」など）419件（12.9%）、5位は「保健衛生品」（「ヘアケア用具」、「家庭用電気治療器具」、「化粧品」など）が144件（4.4%）でした（表6）。

具体的に商品・役務等別でみると、1位は「四輪自動車」455件（14.0%）、2位は「調理食品」158件（4.9%）、3位は「自転車」122件（3.8%）、4位は「菓子類」100件（3.1%）、5位は「電子レンジ類」88件（2.7%）でした（表7）。

表6. 「危険情報」の商品別分類別の上位5位の推移

順位	2017年度 3,251 件			2016年度 3,583 件			2015年度 4,506 件		
	商品別分類	件数	割合(%)	商品別分類	件数	割合(%)	商品別分類	件数	割合(%)
1	住居品	922	28.4	住居品	1,306	36.4	住居品	1,312	29.1
2	車両・乗り物	719	22.1	車両・乗り物	681	19.0	食料品	950	21.1
3	食料品	488	15.0	食料品	464	13.0	車両・乗り物	882	19.6
4	教養娯楽品	419	12.9	教養娯楽品	404	11.3	教養娯楽品	424	9.4
5	保健衛生品	144	4.4	保健衛生品	139	3.9	保健衛生品	157	3.5

表7. 「危険情報」の上位5商品・役務等の推移

順位	2017年度 3,251 件			2016年度 3,583 件			2015年度 4,506 件		
	商品・役務等	件数	割合(%)	商品・役務等	件数	割合(%)	商品・役務等	件数	割合(%)
1	四輪自動車	455	14.0	四輪自動車	460	12.8	四輪自動車	601	13.3
2	調理食品	158	4.9	こんろ類	268	7.5	調理食品	306	6.8
3	自転車	122	3.8	調理食品	149	4.2	菓子類	167	3.7
4	菓子類	100	3.1	自転車	90	2.5	家具類	88	2.0
5	電子レンジ類	88	2.7	電子レンジ類	85	2.4	電子レンジ類	81	1.8

### （2）危険内容

1位は、「異物の混入」463件（14.2%）で、「調理食品」、「菓子類」、「外食」などに関するものが多くなっています。「異物の混入」は7件減少しましたが、前年度1位の「その他」の中の「こんろ類」が223件減少し、前年度1位の「その他」が7位となったことから、前年度（2位、470件）から1位となりました（表8）。

2位は、「発煙・火花」448件（13.8%）で、「四輪自動車」、「電子レンジ類」、「テレビ」などに関するものが多くなっています。「パソコン」「室内照明器具」がそれぞれ11件減少したものの、「四輪自動車」が3件、「テレビ」が12件、それぞれ増加するなどして、前年度（3位、447件）から1件増加し、2位になりました。

3位は、「過熱・こげる」392件（12.1%）で、「電話関連機器・用品」、「携帯電話」、「他の住居用電気器具」などに関するものが多くなっています。前年度（4位、447件）から55件減少しました。

4位は、「機能故障」375件（11.5%）で、「四輪自動車」、「自動二輪車」、「自転車」などに関す

るものが多くなっています。前年度（5位、380件）から5件減少しました。

5位は、「破損・折損」327件（10.1%）で、「自転車」、「四輪自動車」、「家具類」などに関するものが多くなっています。前年度（6位、292件）から35件増加しました。

表 8. 危険内容別上位 5 位の推移

順位	2017年度 3,251 件			2016年度 3,583 件			2015年度 4,506 件		
	危険内容	件数	割合 (%)	危険内容	件数	割合 (%)	危険内容	件数	割合 (%)
1	異物の混入	463	14.2	その他	508	14.2	異物の混入	926	20.6
2	発煙・火花	448	13.8	異物の混入	470	13.1	その他	529	11.7
3	過熱・こげる	392	12.1	発煙・火花	447	12.5	機能故障	503	11.2
4	機能故障	375	11.5	過熱・こげる	447	12.5	発煙・火花	480	10.7
5	破損・折損	327	10.1	機能故障	380	10.6	過熱・こげる	453	10.1

○情報提供先

消費者庁 消費者教育・地方協力課

(法人番号 5000012010024)

消費者庁 消費者安全課

(法人番号 5000012010024)

内閣府 消費者委員会事務局

(法人番号 2000012010019)

(本件問い合わせ先)

商品テスト部：042-758-3165

## 別添

<参考資料 2017年度の「危害情報」「危険情報」における上位3商品・役務等の概要>

### 1. 「危害情報」

#### ①健康食品 (1,847件)

「健康食品」は1,847件で、危害情報全体に占める割合は16.4%となっており、前年度(1位、1,877件)から30件減少しました。

性別では、女性が1,573件(85.2%)と8割以上を占めており、年代別では、40歳代が403件(21.8%)で最も多く、次いで、50歳代399件(21.6%)、70歳以上270件(14.6%)の順となっています。

「健康食品」の内訳をみると、「他の健康食品」が1,339件(72.5%)で最も多く、次いで「酵素食品」284件(15.4%)となっています。

危害内容は、「消化器障害」が998件(54.0%)と5割を超え、次いで、「皮膚障害」497件(26.9%)、「その他の傷病及び諸症状」283件(15.3%)の順となっています。

#### <事例>

- ・豊胸サプリメントを飲んだら生理が止まり、飲むのを止めたら体調が戻った。インターネットでプエラリア・ミリフィカという成分が健康被害を起こすことがあると知り、自分の飲んでいた豊胸サプリメントにも含まれていた(40歳代・女性)。
- ・ネット通販で酵素食品を購入し、3日間程飲んだところで下痢をした。医師から「健康食品により下痢をしたと思われる。使用を中止するように。」と言われ、飲まずに放置していたところ体調は回復。その後、定期購入と知り、解約を告げたが業者は応じない(40歳代・女性)。

#### ②化粧品 (1,577件)

「化粧品」は1,577件で、危害情報全体に占める割合は14.0%となっており、「脱毛剤」や、「まつ毛美容液」などが含まれる「化粧品その他」の定期購入に関するものが増加したことから、前年度(2位、1,175件)から402件増加しました。

性別では、女性が1,357件(86.0%)と9割近くを占めています。年代別では、40歳代が339件(21.5%)で最も多く、次いで50歳代の311件(19.7%)、30歳代227件(14.4%)の順となっています。

「化粧品」の内訳をみると、「脱毛剤」283件(17.9%)、「化粧クリーム」188件(11.9%)、「化粧品その他」174件(11.0%)と続き、「脱毛剤」は前年度(18位、15件)から268件増加しました。

危害内容は、「皮膚障害」が1,435件(91.0%)と全体の9割を占め、次いで「その他の傷病及び諸症状」107件(6.8%)、「熱傷」9件(0.6%)の順となっています。

#### <事例>

- ・SNSで知った脱毛スプレーの定期購入を申し込んだが、肌が赤くなりかぶれた。解約したいが何回電話しても電話が繋がらない(10歳代・女性)。
- ・まつ毛美容液で目が真っ赤に充血し眼科で治療を受けた。定期購入のため5回すべて購入しないと解約できないと言われ不満(50歳代・女性)。

### ③医療サービス（800件）

「医療サービス」は800件で、危険情報全体に占める割合は7.1%となっており、前年度（3位、933件）から133件減少しました。

性別では、女性が565件（70.6%）、男性が225件（28.1%）となっています。年代別では、70歳以上が153件（19.1%）で最も多く、次いで40歳代が127件（15.9%）、20歳代125件（15.6%）の順となっています。

「医療サービス」の内容をみると、美容医療に関するものが390件（48.8%）と5割弱を占めています。危険内容は、「その他の傷病及び諸症状」361件（45.1%）が最も多く、次いで「皮膚障害」166件（20.8%）、「熱傷」75件（9.4%）の順となっています。

#### <事例>

- ・美容外科にシワの相談に行き、糸によるリフトアップを契約し施術を受けたが、解消したいシワには効果がないうえ、思ったところと違う部分に不自然な引きつれとシワが生じ、マスクなしには恥ずかしくて人に会えない。抜糸は可能か（70歳代・女性）。
- ・クリニックで男性器の見た目をよくする高額の注射を受けたが化膿したようで、水疱ができた。半年たってもひどい状態は変わらず銭湯など人目のあるところには行けなくなった。治療費を請求し代金の支払いは拒否したい（40歳代・男性）。

## 2. 「危険情報」

### ①四輪自動車（455件）

「四輪自動車」は455件で、危険情報全体に占める割合は、14.0%となっており、前年度（1位、460件）から5件減少しました。

「四輪自動車」の内訳をみると、「普通・小型自動車」319件（70.1%）が最も多く、次いで「軽自動車」117件（25.7%）となっています。危険内容は、「機能故障」242件（53.2%）が最も多く、次いで「発煙・火花」41件（9.0%）、「その他」37件（8.1%）の順となっています。

#### <事例>

- ・自動ブレーキ機能の付いた自動車に乗っている。前方に車がないのに突然ブレーキがかかることが頻繁に起こる。事故にはなっていないが運転するのが不安。
- ・状態が良いと言われた中古の軽自動車を購入したが、2日目に高速で加速しなくなり白煙が出た。修理が必要とわかり解約したい。

### ②調理食品（158件）

「調理食品」は158件で、危険情報全体に占める割合は4.9%となっており、前年度（3位、149件）から9件増加しました。

「調理食品」の内訳をみると、惣菜、餃子などの「他の調理食品」59件（37.3%）が最も多く、次いで「弁当」32件（20.3%）、「冷凍調理食品」29件（18.4%）と続いています。危険内容は「異物の混入」が135件（85.4%）と9割近くを占めています。

#### <事例>



- ・メンチカツと表示されたお惣菜を買ったらカニクリームコロッケだった。甲殻アレルギーの娘が一口食べて吐き出した。体に影響は無かったが、食品アレルギーを持つ消費者にとって表示は命に関わる。

- ・夕食として購入した恵方巻にかぶりついたところ、口の中に異物を感じ吐き出した。1センチ角のプラスチック片が入っていた。

### ③自転車（122件）

「自転車」は122件で、危険情報全体に占める割合は、3.8%となっており、前年度（4位、90件）から32件増加しました。

「自転車」の内訳をみると、「電動自転車」67件（54.9%）が最も多く、次いで「一般用自転車」が47件（38.5%）となっています。危険内容では、「破損・折損」44件（36.1%）が最も多く、「機能故障」「操作・使用性の欠落」がそれぞれ21件（17.2%）と続いています。

#### <事例>

- ・電動三輪自転車を近所の自転車店で購入。走行中カーブを曲る時、大きく回らないとハンドルが切れない。
- ・電動アシスト自転車のバッテリーを充電中、異臭がしたので見たところ、コードが溶けていた。業者は経年劣化というが納得いかない。